

4. 学際的・国際的な学びを育てる教育環境

1) 学部学生の国際化への支援

(1) トビタテ!留学 JAPAN への応募支援

文部科学省が、グローバル人材育成施策の一環として行う「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」第 14 期募集について学部学生に広報を行ったが応募はなかった。

(2) インドネシア ガジャマダ大学からの短期研修受け入れ

ガジャマダ大学と看護学部は 2013 年に交流協定を締結し、毎年学生の受入や派遣を行っている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった。

(3) 異文化理解看護フィールドワーク開講とインドネシアへの短期派遣研修

令和 2 年度から、インドネシアへの短期派遣研修を事前学習・フィールドワーク・事後学習として単位化することとなったが、新型コロナウイルス感染症拡大により講座開講および短期派遣研修は中止となった。

(4) 「学生のための海外留学・研修等のマニュアル」の改訂

平成 29 (2017) 年に国際交流センターが作成した国際交流対応マニュアルのうち、「学生のための海外留学・研修等のマニュアル」を改定した。これにより、本学の危機管理体制を明示するとともに、学生への意識啓発の強化を図っていく。併せて、令和 2 年度は、海外派遣における危機管理強化のため、新たに特定非営利活動法人 海外留学安全対策協議会 (JCSOS) に入会し、海外派遣時の危機管理サポートを受ける体制を整え、危機管理体制を見直した。

2) 大学院生への支援

2020 年度は、COVID-19 のため、予定されていた短期留学や海外講師による講演や研修が中止になる中、ZOOM を使って、ZOOM Meeting in Kochi 「COVID-19 世界の状況」と「QI プロジェクト」の 2 つの取り組みを実施した。以下に具体的な内容について記載する。

(1) ZOOM Meeting in Kochi 「COVID-19 世界の状況」(主催：高知県立大学看護学研究科 共催：国際交流センター ・人間生活学研究科)

今回の国際交流特別企画は、神原看護学研究科国際交流委員長より、「COVID-19 だからこそ、ZOOM 等を使って遠くにいる人とつながれるようになった。こんな機会をぜひ有効に使ってほしい」との挨拶で始まった。また、講師の許可をえて、これらの講義は録画され、期間限定で公開された。

① COVID-19 in TAIWAN

日程：令和 2 年 12 月 16 日 10:30～12:00

講師：Yann-Fen C. Chao, RN, PhD (Former Dean and Chair Professor, College of Nursing Hungkuang University Taichung, Taiwan)

参加者：26 名 (加えて 動画へのアクセス 27 名)

2400 万人の人口を擁しながらも、新型コロナウイルス感染者数 499 人、死者 7 人 (2020 年 9 月 15 日現在) の台湾の COVID-19 対策について、台湾弘光科技大学看護学部学部長 Chao 先生にとっても具体的にお話しをいただいた。英語でのプレゼンで実施し、要所所で看護学部木下准教授が、日本語の解説を加えながら進めた。台湾では、とても早い時期に、

政府から国民に、トップダウンで、詳細な行動が示され、いくつかの行動については実施しなければ刑罰も伴っていたことなど、具体的な対策の数々が紹介された。参加者は、Chao 先生の話聞きながら、日本と台湾は何が違って、どうして台湾になしえたことが、日本ではできなかったのか…等々、文化の違いなども含めて、さまざまな視点から考える機会をえたようだった。

② COVID-19 in CANADA

日程：令和2年12月18日 10:30～12:00

講師：所和香子（カナダ ヴィクトリアロイヤル・ジュビリー病院 NP）

参加者：16名（加えて 動画へのアクセス 26名）

感染者数 178,117 人 死亡者数 9,585 人のカナダの、医療現場、とくに急性期医療の場で何が起きているのか、COVID-19 の現状や対策などについて、Nurse Practitioner として現場で働く所先生にお話を伺った。所先生からは、人種による死亡率の違い、コロナ陰謀説を唱えるデモなど、カナダならではの状況が語られた。一方、退院調整などできないまま患者を家に帰すしかない状況などが語られると、参加者から、日本に起きている状況ととても似ていると日本の臨床状況が語られ、情報交換の機会ともなった。また、カナダで COVID-19 の影響で、所先生がずっとやりたいと思っていた、IT を使った遠隔診療や、Hospital at Home の充実が進められるようになり、そのことによって新たな課題も見えてきたことが語られると、参加者からは、具体的な実施方法などについても質問がよせられていた。

(2) QI プロジェクト

開催の意図：学際的、国際的共同研究を推進する次世代の若手研究者・教育者の育成のために、QI をテーマに、模擬的に国際共同研究プロジェクトの計画を経験する。

開催日程：2021年2月22日、3月8日、3月15日、3月22日、3月29日の5回 1回1時間程度

講師：所和香子（カナダ ヴィクトリアロイヤル・ジュビリー病院 NP）

参加人数：55名

5回シリーズで実施。まずはそれぞれが自由に語り、臨床で直面している医療・看護の質の課題を抽出した。次に、マトリクスを使って、その課題を解決し、どのような目的を達成しようとしているのか、ブレインストーミングしていく方法を経験した。最後は、見出した課題を、QI の計画に高めていく方法を体験した。参加者は、自由に発言し、海外の情報も含めて情報交換を行っていきながら、医療の質について、国際的、学際的な仲間と協力して解決の一步を踏み出す方法を考えるいい機会となったようだった。参加者も、看護学研究科博士前期課程の1回生を中心に、徐々に参加人数が増え、たくさんの疑問や興味に、所先生が新しい情報を提供してくれるような場面も多々見られた。